

文化・芸術



「地下鉄入口(ハンブルク)」

1970年9月3日
油彩、カンバス、60・6センチ×72・7センチ

島崎蒔助 (1908〜92年)

島崎蒔助は、文豪・島崎藤村の三男に生まれ、14歳のとき、父のすすめにより、兄・鶏二に続き画家を志すようになります。1925年、ベルリンから帰国した村山知義が率いる前衛美術家グループ「マヴォ」に傾倒。その後プロレタリア美術運動に参加、ベルリンへ渡り千田是也らとパウハウス周辺の芸術運動に身を投じます。戦後は、「藤村全集」の編集に奔走。同時に、詩誌「歷程」のポンサーとして、歴程賞の創設にも尽力しました。

島崎蒔助は、文豪・島崎藤村の三男に生まれ、14歳のとき、父のすすめにより、兄・鶏二に続き画家を志すようになります。1925年、ベルリンから帰国した村山知義が率いる前衛美術家グループ「マヴォ」に傾倒。その後プロレタリア美術運動に参加、ベルリンへ渡り千田是也らとパウハウス周辺の芸術運動に身を投じます。戦後は、「藤村全集」の編集に奔走。同時に、詩誌「歷程」のポンサーとして、歴程賞の創設にも尽力しました。

《名画の扉》

大川美術館企画展「大川栄二生誕100年記念 コレクターの目」から

70年、「藤村全集」へ

(小此木)